interview

この日を迎えられて感無量

『進撃の巨人』作者

諫山 創 さん

■漫画家になろうと思ったきっかけ

15歳くらいのときは、クラスの皆と落書きをしていた程度です。その後、専門学校に入り、本格的に漫画家への道を歩み始めました。

■『進撃の巨人』という発想

子供の頃にしていたゲームやテレビに出てくる怪獣やモンスターなどが「巨人」という発想に結び付いたと思います。それから、日田が盆地であることや自分の暮らした大山の町が、壁や作品を描く中の芯を形作るものであったと思っています。

■作品を描くとき意識していること

制限を守ることです。読者の方に緊張感を持って読んでもらうために、キャラクターの行動や性格は現実とかけ離れすぎないように描くことを心掛けています。

■除幕式開催への心境

除幕式は、元々4月の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で先延ばしになったこともあり、この日が迎えられて本当に感無量です。天気にも恵まれ、このコロナの時代に開催できたことも、準備していただいた方、協力していただいた方など、全てに感謝しています。今日のイベントを糧に、残りの物語を頑張って描いていきたいと思います。

■「進撃の巨人　エレン・ミカサ・アルミンの少年期の銅像」の完成

この銅像は、進撃の巨人の始まりの像です。主人公たちが初めて巨人という脅威を目の当たりにし、子供だけど子供のままじゃ生きていけないという厳しい現実を突きつけられるシーンを再現しています。銅像を見に来ていただいた方には是非、銅像の後ろからも見てほしいですね。上を見上げる3人も見応えがあります。この銅像は、みんなで作るという思いのもと、完成した銅像ですので、僕自身改めて頑張ろうという気持ちになりました。本当に感謝しかありません。皆さんの思いが詰まったものなので、優しく扱って見てもらいたいです。

■諫山さんにとって「日田」とは

一つしかない自分の故郷で、自分の帰る場所だと思っています。昔の自分が今の自分を見たらびっくりすると思います。今後も日田の皆さんの役に立てる『進撃の巨人』でありたいです。

■作品を通して、ファンをはじめ読者の方々に伝えたいこと

自分が人に何か言えるような立場ではないので、読者の方々には、それぞれが感じたままに、作品を楽しんでいただければありがたいです。また、作品をきっかけに大山町、日田市、大分県を知ってもらえたらと思います。これからも、日田市と進撃の巨人、両方を盛り上げてもらえるようなイベントをやってみたいですね。

進撃の日田

attack on titan

進撃の日田スポットもチェック

ＪＲ日田駅／進撃の巨人ＡＲ

進撃の巨人モチーフの版画や等身大パネルがあります。「進撃の巨人　in　ＨＩＴＡ」アプリでＡＲ体験もできます。

場所：元町11-1

道の駅　水辺の郷おおやま

諫山さんの故郷である大山町の名産品が勢ぞろい。等身大リヴァイ兵士長の迫力を体感できるイ草ラグもあります。

場所：大山町西大山4108

大山ダム

諫山さんの故郷である大山町のダム。広場として整備された場所にエレン・ミカサ・アルミンの少年期の銅像を設置しています。

場所：大山町西大山2991-2

©諫山創／講談社